

能代第一中学校1年生が植樹を体験

令和3年10月8日、風の松原において能代第一中学校の1年生70名がクロマツの植樹体験を行いました。

この植樹体験は、同校の1年生が総合学習で学校に隣接する「風の松原」について学んでいることから、「植樹体験ができないか」という学校側の要請に応える形で受け入れたもので、当署からは5名が参加しました。



【開会式】

はじめに、風の松原陸上競技場で開会式を行いました。佐藤校長先生から植樹体験を計画した経緯等についてお話があり、続いて、当署の平川森林整備官が「風の松原」の役割と松くい虫被害について説明。まずは、風の松原の復習からスタートしました。その後、陸上競技場から600mほど離れた植樹箇所へと移動しました。途中、松くい虫被害により葉が茶色に変色したクロマツを何本かを見つけ、生徒達に説明する場面もみられました。



【挨拶する佐藤校長先生】

今回の植樹箇所は、この間の松くい虫被害によりクロマツを伐採してできた空き地で約10m四方の範囲。到着した生徒達は荷物を置き準備を整えました。まずは、育成担当の工藤職員が苗木の扱い方、穴の掘り方、植え方を説明しながら実際にクロマツのコンテナ苗を1本を植えて見せ、その後、一斉に植付けを開始しました。生徒達は、ディンプルを使って力を込めて穴を掘り、慎重に苗木を入れ、しっかりと踏み固めを行



【風の松原を説明する平川森林整備官】



【植付を実演する工藤職員】



【先生もお手伝い】



【大きく育てよ〜】



【穴掘りがんばって！】



【みんな一生懸命】



【きれいに植えました】



【みんなで記念写真】 →

い、苗木がきちんと植えられているか確認しながら作業を進め、100本の苗木を植樹しました。植樹終了後には、標柱を立て、みんなで記念撮影を行いました。

最後に、陸上競技場に移動して閉会式を実施。自分たちが植えたクロマツの生長を見守りつつ、風の松原を大切に守っていくことを確認して終了しました。